

大阪において梅田、難波につぐ主要都市であり、あべのハルカスをはじめとする都市の多彩な施設と新旧さまざまな住宅が混在する「あべの/天王寺」。

その地域の中心地に位置する「ローレルアイあべの」は、都市、そして密集地に心地よく暮らすということの一つの答えを提示する、地上15階建て、1フロア7戸の分譲マンションです。

### ■バルコニーの向きを東西切り替えることで住環境を守り、同一面に「2つの顔」をもつ外観デザインへ昇華

本計画では建物同一面において、隣地建物が迫る部分には共用廊下を、前面が開けた部分にはバルコニーを切り替えて配置することで、狭小密集地特有の建物同士の見合いを解消。居住者にはバルコニー側の開放性を、近隣住民にはプライバシーを確保し、両者の住環境を保護しました。

さらにバルコニー側を白、共用廊下側を黒とすることで同一面に「2つの顔」をもつ現代的な外観デザインへと昇華し、都市型住宅の1つのあり方を示しました。



【周辺建物への配慮と「2つの顔」をもつ外観デザイン】

### ■外観デザインはマリオンやルーバー、無彩色の明暗とガラスで構成し、圧迫感を抑えた現代的な設え

エントランスファサードは、マリオンとルーバーを用いた繊細な“線”による垂直性や、無彩色の明暗とガラスで構成された透明性のある素材感によって、街に対しての圧迫感を低減し、喧騒の中でも凜と立つ佇まいとしています。

内観のインテリアデザインも外観と同様の“線”のデザインを踏襲することで親和性を持たせています。

### ■エントランスゲートのあるアプローチ空間は、居住者の気持ちをONからOFFへと切り替える場

建物をセットバックし、大きなエントランスゲートと洗練された外構により構成されたアプローチ空間は、街と住空間をゆるやかに繋ぎ、居住者の気持ちをONからOFFへと切り替える場となっています。

さらに、エントランスアプローチの延長線上には象徴的な光壁を設け、東西で向きの異なる住戸に帰りゆく居住者の分岐点となるアイキャッチを生成しています。



### ■審査員による評価コメント

一見とても単純な構成であるかのような片廊下型の集合住宅だが、敷地の状況に合わせて、全体の半分の住戸で廊下とバルコニーの反転を行っている計画。発見的なアイディアで非常に興味深い。妻面を完全にシンメトリーに纏めているのも、設計者の手腕を感じさせる。一方でこのコンセプトをラディカルに表現した結果であろう白と黒の対比は、街並みに対しては少マイパクトがありすぎるようにも見える。

### 【ローレルアイあべの 物件概要】

所在地	大阪市阿倍野区松崎町二丁目3番8
交通	近鉄南大阪線「大阪阿部野橋駅」徒歩2分 OsakaMetro御堂筋線・谷町線「天王寺駅」徒歩3分
敷地面積	1,715.09㎡
構造・規模	鉄筋コンクリート造 地上15階建
総戸数	97戸
竣工時期	2020年8月
事業主	近鉄不動産株式会社
設計・監理	株式会社奥村組 西日本支社 一級建築士事務所
デザイン監修	株式会社プランテック総合計画事務所
施工会社	株式会社奥村組 西日本支社